

平成30年度 【ダイジェスト版】 全国学力・学習状況調査における香美町の調査結果のまとめ（概要）

香美町教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、香美町における児童生徒の学力や学習状況を分析・把握し、本町の教育施策の成果や課題を検証し、その改善を図るとともに、各小・中学校における児童生徒への教育指導の充実や学習・生活状況の改善等に役立てることを目的とする。

なお、本調査において測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。

(2) 実施期日 平成30年4月17日（火）



(3) 調査実施校数及び人数

- ・小学校6年生：10校 114人
- ・中学校3年生：4校 129人

(4) 調査内容

- ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
- (ア) 主として「知識」に関する問題（A）
- (イ) 主として「活用」に関する問題（B）
- ※理科はA、Bの区分はなく、一体的に出題される。
- イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
- (ア) 児童生徒に対する調査
- (イ) 学校に対する調査

2 本町の状況

<教科に関する調査の状況>

【調査結果の分析の基準】

全国平均正答率を基準とした時の割合	全国や兵庫県と比較した時の表現
+5.1%以上	上回る
±5.0%以内	同程度
-5.1%以下	下回る

① 小学校に関する状況

教科	A (知識) B (活用)	香美町の結果	
		国との比較	兵庫県との比較
国語	A (知識)	同程度	同程度
	B (活用)	下回る	同程度
算数	A (知識)	下回る	下回る
	B (活用)	下回る	下回る
理科	—	同程度	同程度

② 中学校に関する状況

教科	A (知識) B (活用)	香美町の結果	
		国との比較	兵庫県との比較
国語	A (知識)	同程度	同程度
	B (活用)	同程度	同程度
数学	A (知識)	同程度	同程度
	B (活用)	同程度	同程度
理科	—	同程度	同程度

③ 教科ごとの調査の状況

【調査結果の概略】※分析等の詳細は、本体冊子参照

小学校

- (国語) ・正答、誤答、無解答の各割合や領域ごとの正答率、正答数の児童の割合とも、全国・兵庫県とほぼ同様の傾向を示している。
- ・「話すこと、聞くこと」の領域に関してやや課題がみられる。
- ・B問題における記述式の問いに対して、やや課題がみられる。
- (算数) ・「数量関係」、「図形」、「数と計算」の領域に関してやや課題がみられる。
- ・無解答は全体的には少ないものの、数量や図形について理解したり、理由を記述したりする問いにやや課題がみられる。
- (理科) ・学習指導要領の内容区分を問わず、科学的思考・表現にやや課題がみられる。
- ・自然現象に関する知識や情報を日常生活と関連づけて考えたり、記述したりするなどの取組が求められる。

中学校

- (国語) ・いずれの領域においても、正答率は全国・兵庫県と同様の傾向を示している。また、評価の観点別正答率も同様の傾向にある。
- ・問題形式では、B問題の選択式にやや課題がみられる。
- (数学) ・正答、誤答、無解答の各割合や領域ごとの正答率、正答数の生徒の割合とも、全国・兵庫県と同様の傾向を示している。
- ・数学的な表現を用いて理由を説明する記述式の問いにやや課題がみられる。
- (理科) ・正答、誤答、無解答の各割合や分野ごとの正答率、正答数の生徒の割合とも、全国・兵庫県と同様の傾向を示している。
- ・理科（主として「知識」）と理科（主として「活用」）の正答数には相関関係が見られる。（相関係数：0.661／本体冊子掲載のバブルチャート参照）

【調査結果の概要】

◆小学校◆

- 香美町の正答率は、全国と比較した場合、国語の「主として知識」（いわゆるA問題）及び理科については「同程度」であるが、国語の「主として活用」（いわゆるB問題）及び算数（A問題、B問題とも）については、やや下回っている。

また、兵庫県と比較した場合、国語（A問題、B問題とも）、理科については、「同程度」であるが、算数（A問題、B問題とも）については、やや下回っている。

◆中学校◆

- 香美町の正答率は、全国と比較した場合、国語（A問題、B問題とも）、数学（A問題、B問題とも）、理科のいずれにおいても「同程度」である。
- また、兵庫県と比較した場合も同様である。

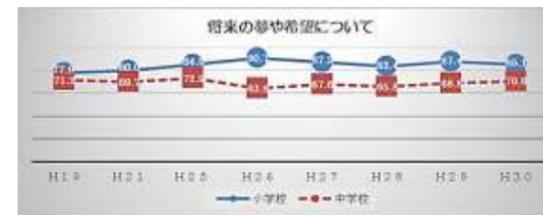
◆<児童生徒質問紙に関する調査の状況>

①【読書活動について】（「3つの町民運動」関連）〔単位：％、以下同様〕



- 児童生徒とも読書時間は増加傾向にある。
- 小学校・中学校とも「3つの町民運動」における「読書」の取組において、一定の成果が現れつつあると考えられる。
- 小学校では、国語B、理科において1日当たりの読書時間が長い児童ほど正答率が高い傾向がみられた。（クロス集計ページ参照）
- 中学校においては、有意な差は見られなかった。（同上）
- 読書の好き嫌いについての問いは、今年度は設けられていなかった。

②【将来の夢や目標について】（キャリア教育推進関連）



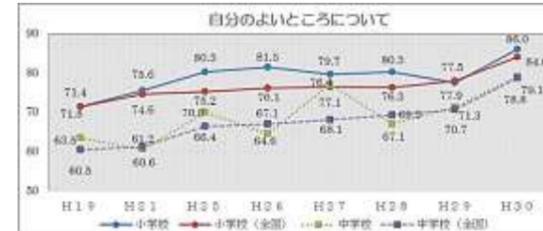
- 平成30年度は、小学校は微減、中学校は微増している。
- 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、児童では80%台程度で推移している。一方、生徒では70%前後で推移している。
- 今後とも、校種間の連携を図りつつ、一貫化教育の取組の中でキャリア教育の推進体制の整備を図り、児童生徒が、社会の変化を乗り越え、高い志や意欲を持つ自立した人間として、未来を切り拓いていく力を身に付けることができるよう取り組んでいくことが求められる。

③【家庭学習について】（キャリア教育推進関連）



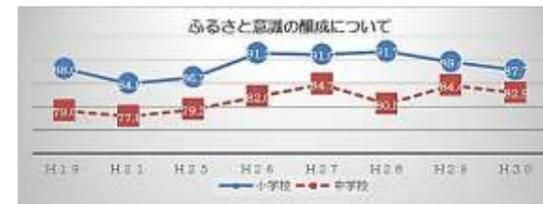
- 今年度は土日についての問いがなく、データがグラフに反映できていない。
- 家庭学習の習慣が、児童生徒ともに着実に定着しつつある傾向がうかがえる。今年度は、児童において顕著である。
- 生徒では、これまで同様、平日の家庭学習時間が「2時間以上」と回答している者の割合が30%に満たない状況にあり、家庭学習習慣の定着と家庭への啓発に向けた取組が求められる。
- 今後とも、キャリア教育推進の取組の一環として、「家庭学習」の重要性を児童生徒に認識させるとともに、校区内の小学校・中学校が連携しあって取り組むことが大切である。

④【自己有用感について】



- 今年度は、全国、香美町いずれにおいても小学校、中学校とも増加傾向にあり、自己有用感が高まりつつあると考えられる。
- 要因としては、保護者や教師が子どものよいところを褒めたり、認めたりするなどして自信をもたせる取組により、一定の成果が現れつつあることが考えられる。
- 今後とも、家庭との連携を図るとともに、授業や学校行事など、様々な機会や場を通して、子どもたちの成功体験を価値付けし、達成感や成就感を持たせる取組を充実していくことが大切である。
- 学力とのクロス集計では、「自分によいところがある」と認識している児童生徒ほど、正答率が高い傾向にある。（クロス集計ページ参照）

⑤【ふるさと意識の醸成について】（「ふるさと教育」推進関連）



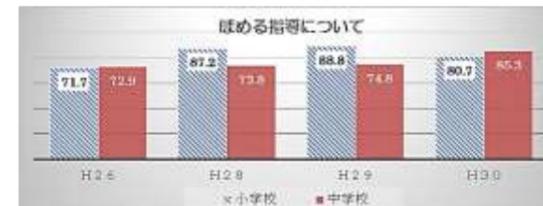
※(参考)

「今住んでいる地域が好きですか。」（平成19年度調査）の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童（小学校6年生）生徒（中学校3年生）の割合は次のとおりである。

児童	84.8%
生徒	73.1%

- これまで同様に、児童生徒とも、「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は高いが、児童の方が生徒よりも高く推移している。
- 今年度は、平成29年度よりも児童生徒とも微減しているものの、80%台で推移しており、小・中学校とも、「ふるさと教育」の取組成果が浸透しつつあることがうかがえる。
- 学力とのクロス集計では、生徒においては有意な差は見られないが、児童においては、正答率が高い児童ほどふるさと意識が高い傾向が見られる。

⑥【教師が児童生徒のことを認めることについて】（「ほめる指導」「認める指導」関連）



- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」と回答している児童生徒の割合は、今年度、児童はやや減少したが、生徒は大きく増加した。
- 「香美町教育の重点」に示された「ほめる指導」、「認める指導」の推進が浸透しつつあることがうかがえる。
- 今後とも、脳科学の知見を生かし「褒めること」、「認めること」の大切さを保護者などに啓発していくとともに、その実践充実に努め、児童生徒の内発的学習意欲の向上に繋げる取組が求められる。

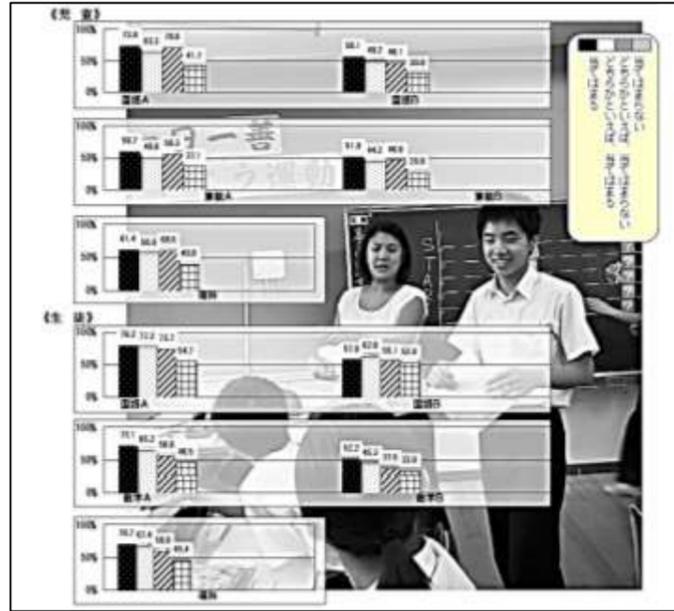
＜主体的、対話的で深い学びの視点に立った取組と正答率の状況について＞

【質問番号】 小(55)中(52)

【質問事項】 1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いませんか

【分析及び考察】

- 児童生徒ともに、肯定的な回答を選択した方が、教科の正答率が高い傾向にある。特に、生徒において顕著である。主体的、対話的で深い学びの視点に立った積極的な取組が求められる。
- 学校質問紙では、肯定的な回答をした学校が11校、否定的な回答をした学校は3校である。



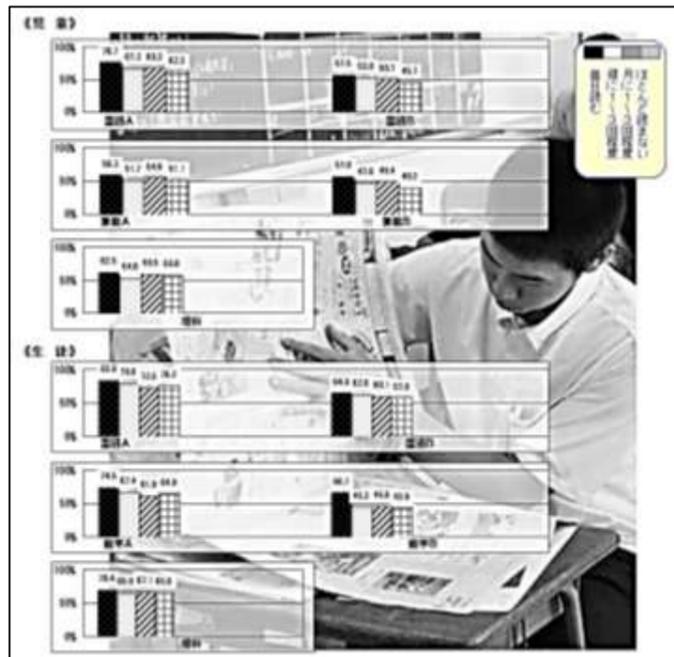
＜「読書時間」と正答率の状況について＞

【質問番号】 小(15)、中(15)

【質問事項】 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

【分析及び考察】

- 児童生徒ともに、1日当たり「2時間以上」読書をしている方が教科の正答率が高い傾向にある。一方、「全くしない」児童生徒の正答率は、最も低い傾向にある。
- 読書時間数の多少と教科の正答率の相関関係に、有意差はみられないと考えられる。



＜「新聞を読むこと」と正答率の状況について＞

【質問番号】 小(25)、中(25)

【質問事項】 新聞を読んでいますか

【分析及び考察】

- 新聞を読む頻度の高い児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。
- 特に算数B、数学Bにおいて「毎日読む」児童生徒とそれ以外の回答をしている児童生徒に有意差が見られる。
- 新聞を読む習慣は、昨年度から微増しており、今後とも新聞を読むことを日常生活の一部としていくことが求められる。



学校では

魅力ある授業づくりを！

～「学ぶ授業」から「学び合う授業」へ、授業の質的転換を図る～
児童生徒の「学びに向かう力」を高めるためには、安心して共に学び合う学校環境の整備を進めるとともに、指導者は子どもたちの実態に学び、学力や学習状況の把握に基づく、きめ細かな学習指導に取り組むことが大切です。

指導力を高め合う組織づくりと

学びの連続性のある取組を！

～小中連携、小中一貫化の取組を通じた交流の質的高まりを図る～
子どもたちの学びの連続性を保障するためには、校種間の枠を越え、義務教育9年間を通して児童生徒に必要な資質・能力を育むことが大切です。

小規模校ならではの特色を生かした取組を！

～「学校間スーパー連携チャレンジプラン」を充実し、取組の質的向上を図る～
小規模校のよさを生かし、きめ細かな指導をすすめるとともに、小規模校の課題を克服し、子どもたちの主体性、望ましい競争心を育てることが大切です。そのために、「学校間スーパー連携チャレンジプラン」に取り組み、多人数の学習集団や複数教員による複眼的な指導により子どもたちの学力や人間関係を高めていきます。

＜授業実践のポイント＞

- 「めあて・学習課題や学習の流れ」の提示、「振り返り」活動を取り入れる。
- 新学習指導要領改訂のポイントを踏まえるとともに、指導形態や指導方法の工夫改善を図り、授業の展開の中に、「書く活動」、「発表や話し合う活動」などを積極的に取り入れ、授業改善をすすめる。
- ICT機器の活用を図ったり、体験的な活動などを取り入れたりする。
- 「ほめる指導」、「認める指導」を大切にする。
- 個人カルテの活用などにより、一人も見逃さない個別指導を推進する。

＜実践のポイント＞

- 若手とベテランが学び合う同僚性の構築を組織的にすすめる。
- 中学校区で「目指す子ども像」を共有し、合同研究会などを通して指導方法や指導体制等の工夫改善を図る。
- 9年間を見通したカリキュラムづくりや授業研究や研修会、乗り入れ授業などに取り組むとともに、学習ルールや授業スタイルの共有化などを図る。
- キャリア教育の視点から「家庭学習のきまり」を作成するなど、中学校区で学習への目的意識を持たせる系統的な指導をすすめる。

＜実践のポイント＞

- 事前、事後の打合せや研修を充実させ、他校の教員の実践からも学び合うなど、自らの授業改善に生かす。
- 取組成果や課題の可視化を図り、次の取組につながる評価などについて検討する。
- 平成25年度からスタートし、6年目を迎えた本事業の成果を継承するとともに、課題解決のため「チャレンジプラン総会議」を設置し、今後の取組の充実を図る。

家庭、地域では

家庭は子どものよりどころ、すべての教育の出発点 地域の子どもは地域で育てる機運を盛り上げよう！

子どもたちが安心して学びに向かうためには、学校にとって家庭や地域の協力は不可欠です。家庭で読書や家庭学習などに積極的に取り組んだり、家の人と学校の出来事について話をしたりする児童生徒ほど、学力・学習状況調査の正答率が高い傾向にあります。また、地域には学校での学習につながる教育・学習資源や人材が豊富です。地域に学び、子どもたちのふるさと意識を醸成していくことは、将来の香美町を支えていくためにも大切です。「オープンスクール」、「学校版教育環境会議」など、様々な機会や場を通して、学校と家庭・地域がいっしょになって子どもたちの未来を考え、共に育んでいきましょう。

＜実践のポイント＞

- 規律ある生活（早寝、早起き、朝ごはん等）、家庭内での対話の習慣化
- 家庭学習の習慣化（「ながら勉強ゼロ」など）
- 家庭で読書に親しむ環境づくり（「親子で読書」「あった家読書」など）
- スマートフォンなど情報通信機器利用に関するルールづくり
- 努力すること、最後までやり抜くことの大切さを伝える。
- 子育て、しつけの中での「ほめる」、「認める」の実践
- 地域行事やボランティア活動などへの参加を通じた「ふるさと意識」や社会貢献意識の醸成
- 「あいさつ運動」の推進や「ふるさとものしり博士」などによる学校支援等

行政では

学校・家庭・地域への支援を！

教育委員会では、「ふるさとに学び 夢や志を抱きふるさと香美を大切に作る人づくり」を目指し、「香美町教育振興基本計画」や「香美町教育の重点」に基づき、香美町の教育を推進していきます。そのために、各学校の教育充実を図るとともに、家庭・地域での様々な取組を支援していきます。

＜各種研修会の実施＞

- ホームページ、町広報誌などによる情報提供
- 各種事業の実施（ふるさと教育交流会、ふるさとおもしろ塾、土曜チャレンジ学習、ふるさと給食試食会など）
- 学校等の施設設備など、教育環境の充実等